バスケト語の文法概観II *

乾　秀行

(山口大学)

inui@yamaguchi-u.ac.jp

0　はじめに

本稿は、エチオピアの北オモ系の中の西オメト諸語[1]に属するバスケト語 (Basketo) の文法を概観することを目的とする。バスケト語の文法についてはすでに乾 (2005) で取り上げたが、本稿はその続編にあたり、紙面の都合上取り扱えなかった形態論の中の 1. 形容詞、2. 動詞、および 3. 統語論を取り上げる。ただし、調査は現在も進行中で、細部において十分検討できていない部分も残っており、本稿の文法記述はあくまで現時点での暫定的なものであることを申し添える。

バスケト語居住地域の中心地バスケト (Baskeeto) は、首都アジスアベバから南西へ約 500 キロあまり離れたサウラ (sawla) からさらに、車 (4WD) で約 2 時間（距離にして約 40 キロ）のところにある。Grimes (2000) によれば、1998 年の人口調査で母語話者数は約 58,000 人である。しかし、エチオピアの爆発的人口増加を考え合わせると、現在はもっと増えていると予想される。

バスケト語に関する先行研究としては、Cerulli (1938)[2] と Alemayehu A. (2002)[3] が

*本稿のデータは、2002 年 3 月、11 月、2003 年 11 月、2005 年 3 月、2006 年 3 月に、エチオピア連邦民主共和国内のアルバミンチ (Arba Minch) およびバスケト (Baskeeto) 近郊のバルタ (balt'a) 村でフィールド調査して収集したものである。インフォーマントには、バスケトの中心地ラスカ (Laska) からさらに車で 40 分のところにあるバルタ (balt'a) 村出身で、現在はアルバミンチで生計を立てている Fiqre Dejene 氏にお願いした。また、バルタ村で複数のインフォーマント (主に Taariku Oshenna 氏、Abbaba Subalew 氏、Amare Yilma 氏）にも本稿に載せた例文を確認してもらった。ここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成 16〜19 年度科学研究費基盤研究 (B)「オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築」代表乾秀行 (山口大学)(課題番号 16401008) による研究成果の一部である。

[1]Fleming (1976) の分類による。

[2]本稿で論じる文法項目の中では、動詞の非完結相・完結相、否定形、疑問形、命令形、存在動詞について言及されている。

[3]本稿で論じる文法項目の中では、動詞の非完結相・完結相、テンス、否定形などについて言及されている。ただし、英語の文法項目に相当引きずられた記述になっているため、バスケト語の文法の本質を捉えているとは言い難い面がある。

ある。しかし、両論文とも断片的な記述で、十分な文法説明がされていなかったり、明らかに誤った文法解釈をしているところもあり、多くの点で不十分な記述である。そこで、両論文について本稿の中で逐一言及することは、かえって議論が煩雑になると思われるので、必要に応じて注釈するにとどめることにする。

1　形容詞

形容詞に関して、修飾的用法と述語的用法、主体の格標示、性・数の一致、比較表現、品詞変換を取り上げる。

1.1　修飾的用法と述語的用法

形容詞は語末が子音で終わる以外に、その異形態として母音/-i/、/-e/が付加される場合がある。その使い分けは、修飾的用法と述語的用法と関係する。修飾的用法の場合には/-i/が選ばれ、一方述語的用法の場合には/-e/が選ばれる。どちらの用法の場合も子音で終わるよりも、より用法が明示的になるため、母音が付加される形態の方が好まれる。逆に修飾的用法において/-e/が付加されることや述語的用法で/-i/が付加されることは絶対にない。なお、稀に語末に/-a/が付加されることがある。ただし、述語的用法の場合には疑問文の意味に変わる。以下に例を挙げる。

1.1.1　修飾的用法

(1) ɦia-ad-i　　oratts/oratts-i keːtsa.
this-DEF-NOM new　　house
‘これは新しい家です。’

(2) ɦia-ad-i　　karts/karts-i gentsa.
this-DEF-NOM black　　ox
‘これは黒い牛です。’

(3) ɦia-ad-i　　ɓetʃ/ɓetʃ-i ɸara.
this-DEF-NOM big　　horse
‘これは大きな馬です。’

1.1.2　述語的用法

(4) keːts-a　　oratts/oratts-e.
house-ABS new
‘家は新しい。’

(5) gents-a karts/karts-e.
ox-ABS black
'雄牛は黒い。'

(6) ɸar-a ɓetʃ/ɓetʃ-e.
horse-ABS big
'馬は大きい。'

(7) ke:ts-a oratts-a?
house-ABS new-INTRO
'家は新しいか？'

(8) gents-a karts-a?
ox-ABS black-INTRO
'雄牛は黒いか？'

(9) ɸar-a ɓetʃ-a?
horse-ABS big-INTRO
'馬は大きいか？'

1.2 主体の格標示

形容詞文の主体を表す名詞句は、通常絶対格/-a/で現れる ((10)〜(18))。ただし男性の固有名詞 ((19)〜(20)) や定の名詞句 ((21)〜(23)) が来た場合には主格形/-i/が現れる。

(10) kar-a tʃ'ingaʃ.
door-ABS old
'戸は古い。'

(11) ars-a li:k'.
bed-ABS soft
'ベッドは柔らかい。'

(12) sukkar-a k'a:ts.
sugar-ABS sweet
'砂糖は甘い。'

(13) kan-a tʃ'ingaʃ.
dog-ABS old
'犬は年寄りだ。'

(14) me:nts-a mi:nts.
baffaro-ABS strong
'バッファローは強い。'

(15) gents-a mi:nts.
OX-ABS strong
'雄牛は強い。'

(16) mi:z-a mi:nts.
COW-ABS strong
'雌牛は強い。'

(17) kaɸ-a gill-e.
bird-ABS small
'鳥は小さい。'

(18) wottsan-a tʃ'ingaʃ.
Wottsana-ABS old
'ウォツァナ（女）は年寄りだ。'

(19) ɸik'r-i tʃ'ingaʃ.
Fiqre-NOM old
'フィクレ（男）は年寄りだ。'

(20) ts'o:s-i koʃ.
god-NOM good
'神は善だ。'

(21) kana-ad-i tʃ'ingaʃ.
dog-DEF-NOM old
'この犬は年寄りだ。'

(22) me:nts-ad-i mi:nts.
baffaro-DEF-NOM strong
'そのバッファローは強い。'

(23) ts'o:sa-ad-i koʃ.
god-DEF-NOM good
'その神は良い。'

1.3 性・数の一致

形容詞は名詞を修飾する場合、その名詞の性・数に一致する。ただし複数形に性の区別はない。また、数の一致はそれほど厳格なものではなく、度々複数標示が落ちる。

形容詞の性・数の一致

	単数 (SG)	複数 (PL)
男性 (M)	-iz	-iz-antsa
女性 (F)	-az	-iz-antsa

k'oisiz asa(M.SG)	「美しい男 ('beautiful man')」
k'oisiz-ants as-antsa(M.PL)	「美しい男たち ('beautiful men')」
k'oisaz wuddire(F.SG)	「美しい女性 ('beautiful woman')」
k'oisiz-ants wuddir-antsa(F.PL)	「美しい女性たち ('beautiful women')」

1.4 比較表現

比較を表す場合、バスケト語には比較級のような特別な形態はなく、比較の対象を奪格標示/-apo/にして、形容詞を動詞化することで表される（(24)〜(27)）。また最上級という形態もなく、(28) のように単に比較の対象を明示しない[4]か、あるいは形容詞に具格標示/-bara/をつけて、副詞ʃid「ずっと、もっと」を動詞化したʃid-ire「優っている」を使って表す（(29)〜(30)）。

(24) ɸik'r-i meskerem-apo ɓaring-ire.
Fiqre-NOM Meskerem-ABL be big-3SG.M.IMPF
'フィクレはメスケレムよりも大きい。'

(25) meskerem-a ɸik'r-apo k'abing-are.
Meskerem-NOM Fiqre-ABL be small-3SG.F.IMPF
'メスケレムはフィクレよりも小さい。'

(26) taːn-i uːɸ-apo ʃid wots' dos-are.
1SG.NOM injera-ABL much wots'-ACC like-1SG.IMPF
'私はインジェラよりずっとワットが好きだ。'

(27) ɸik'r-i meskerem-apo ʃid miːʃ wod-e.
Fiqre-NOM Meskerem-ABL much money-ACC be-3SG.M.IMPF
'フィクレはメスケレムよりもっとお金を持っている。'

[4]この場合、述語は形容詞のままで動詞化しない方が無標である。

(28) ɸik'r-i saɸar-itti ɓarints-e/?ɓaring-ire.
Fiqre-NOM village-LOC be big-3SG.M.IMPF
'フィクレは村の中で大きい。'

(29) ɸik'r-i saɸaro wojlints as-ants-apo ɓarints-bara ʃiɗ-ire.
Fiqre-NOM village many man-PL-ABL big-INSTR surpass-3SG.M.IMPF
'フィクレは村の多くの人より大きさにおいて優っている。'

(30) ɸik'r-i saɸar-itti ɓarints-bara ʃiɗ-ire.
Fiqre-NOM village-LOC big-INSTR surpass-3SG.M.IMPF
'フィクレは村の中で大きさによって優っている。'

1.5 品詞変換

1.5.1 動詞化

形容詞を動詞化する場合、形容詞語幹に動詞化接辞/-ire/をつけることで作り出される。形容詞を動詞化すると、主体の格標示は絶対格から主格/-i/に変わる。総称 (generic) としての一般的な性質に言及する場合には非完結相[5]が使われ((31)〜(34))、特定 (specific) の具体的な事柄について言及する場合には、完結相が使われる。たとえば、特定の「この砂糖」が甘かったり、特定の「ある子供」が善良であったり、特定の「今囓っているレモン」が酸っぱいことを言及する時には、完結相の方が選ばれる((35)〜(37))。

(31) sukkar-i k'a:ts-ire.
sugar-NOM sweet-be-3SG.M.IMPF
'砂糖(総称)は甘い。'

(32) mats'in-i tʃ'ang-ire.
salt-NOM hot-be-3SG.M.IMPF
'塩(総称)は辛い。'

(33) na'in koshk-are.
daughter-NOM good-be-3SG.M.IMPF
'娘(総称)は、(一般的に)良いものだ。'

(34) lo:m-i ʃung-ire.
lemon-NOM sour-be-3SG.M.IMPF
'レモン(総称)は酸っぱい。'

[5]アスペクトについては、2章の動詞のところで詳しく扱う。

(35) ɦaː sukkar-i k'aːts-ine.
this sugar-NOM sweet-be-3SG.M.PF
'この砂糖は（特に）甘い。'

(36) ta na'in koʃk-ine.
1SG.POSS daughter-NOM good-be-3SG.F.PF
'私の娘は（現在のところ）善良だ。'

(37) ɦaː loːm-i ʃung-ine.
this lemon-NOM sour-be-3SG.M.PF
'このレモンは（特に）酸っぱい。'

1.5.2 名詞化

形容詞から名詞を派生させる場合は、形容詞に男性名詞の定 (definite) を表す/-ada/を接辞させる。以下に例を挙げる。

dura	「裕福な ('rich')」	dura-ada	「金持ち ('the rich')」
daha	「貧しい ('poor')」	daha-ada	「貧乏人 ('the poor')」

2　動詞

動詞に関して、ここではテンス・アスペクト、態、法、品詞変換、派生動詞、疑問文、否定文について取り上げる。

2.1　テンス・アスペクト

バスケト語の動詞のテンス・アスペクトは、非完結相 (imperfective) と完結相 (perfective) が対立するアスペクトを基本にしている。

2.1.1　非完結相

非完結相の人称語尾は主体を表す名詞句に応じて次のように活用する。しかし、1人称単数と3人称女性単数が/-are/、3人称男性単数と1人称複数と3人称複数が/-ire/となっているように、人称語尾による弁別が明瞭になされているわけではない。以下に規則変化動詞の代表例として「行く ('go')」と「飲む ('drink')」を挙げておく。

ところで一部の動詞は通常の活用形以外に短縮形があり、動詞の活用が音変化したためにやや不規則になっている。その例として不規則変化動詞「食べる ('eat')」と「来る ('come')」の活用を挙げておく[6]。また、存在を表す動詞「ある ('be')」は、すべての人称において同形で出てくる[7]点で動詞活用の唯一の例外といえる。

非完結相の動詞活用

	SG	PL
1	-are	-ire
2	-abe	-ibte
3M	-ire	-ire
3F	-are	

[6] (　) で括った活用は稀に現れる有標な活用である。

[7] Cerulli (1938: 102) には本稿で不規則変化する動詞として記述している「食べる」の一人称単数を 'mōna'、規則変化する動詞「飲む」の一人称単数を 'uškana' とし、特に説明もされていない。一方、Alemayehu A. (2002: 15-17) では現在形および未来形として非完結相が取り上げられ、やはり「食べる」という動詞を取り上げ、活用がすべての人称で mo-re になると記述されている。いずれも本稿の記述と異なっている。

lukk-ire('go-IMPF')		
	SG	PL
1	lukk-are	lukk-ire
2	lukk-abe	lukk-ibte
3M	lukk-ire	lukk-ire
3F	lukk-are	

uʃk-ire('drink-IMPF')		
	SG	PL
1	uʃk-are	uʃk-ire
2	uʃk-abe	uʃk-ibte
3M	uʃk-ire	uʃk-ire
3F	uʃk-are	

muj-ire('eat-IMPF')		
	SG	PL
1	mo-ore	muj-ire
	/muj-are	
2	mo-obe	mu-ubte
	/(muj-abe)	/(muj-ibte)
3M	muj-ire	muj-ire
3F	mo-ore	
	/muj-are	

jej-ire/jere('come-IMPF')		
	SG	PL
1	jej-are	jej-ire
	/jere	
2	jej-abe	jebte
	/jebe	/(jej-ibte)
3M	jej-ire	jej-ire
3F	jej-are	
	/jere	

(38) zina:bo ta:n-i sek woɗ-e.
yesterday 1SG-NOM there be-IMPF
'昨日私はそこにいた。'

2.1.2 完結相

完結相の人称語尾は/-ine/および/-ade/、あるいは/-ide/である。すなわち、それぞれの人称には２つの形態があることになるが、両者の意味の違いは今のところ不明である。また/-ine/がすべての人称に現れることから、動詞の人称語尾としては実質的に全く機能していないことになる。一方、/-ade/が１人称単数、２人称単数、３人称女性単数に現れ、/-ide/が３人称男性、およびすべての

woɗe('be-IMPF')		
	SG	PL
1	woɗ-e	woɗ-e
2	woɗ-e	woɗ-e
3M	woɗ-e	woɗ-e
3F	woɗ-e	

人称の複数に現れる。これを３人称単数の使い分けから、通時的に男性形と女性形の違いであった可能性がある。１人称と２人称においてその対立がなくなり、/-ade/が男性の場合にも広がったのではないかという仮説を立てて、インフォーマントにその点について質問したところ、その可能性を示唆される時もあった。しかしその後その点について何度も確認作業を行ったところ、現時点では確証を持つに至らなかった。そこで今のところ１人称および２人称の活用形の違いに関して、男女による使い分けであったという明確な証拠を見つけ出すことができないと判断した。ただ異形態が存在する以上、通時的には何らかの意味機能上の違いがあったと考えるのが自然である。以下に規則変化動詞の例として「行く (‘go’)」と「飲む (‘drink’)」、不規則変化動詞の例として「食べる (‘eat’)」と「来る (‘come’)」をそれぞれ挙げておく[8]。

完結相の動詞活用

	SG	PL
1	-ine/-ade	-ine/-ide
2	-ine/-ade	-ine/-ide
3M	-ine/-ide	-ine/-ide
3F	-ine/-ade	

lukk-ine(‘go-PF’)

	SG	PL
1	lukk-ine	lukk-ine
	/lukk-ade	/lukk-ide
2	lukk-ine	lukk-ine
	/lukk-ade	/lukk-ide
3M	lukk-ine	lukk-ine
	/lukk-ide	/lukk-ide
3F	lukk-ine	
	/lukk-ade	

uʃk-ine(‘drink-PF’)

	SG	PL
1	uʃk-ine	uʃk-ine
	/uʃk-ade	/uʃk-ide
2	uʃk-ine	uʃk-ine
	/uʃk-ade	/uʃk-ide
3M	uʃk-ine	uʃk-ine
	/uʃk-ide	/uʃk-ide
3F	uʃk-ine	
	/uʃk-ade	

[8]Cerulli (1938: 102) には、「食べる」の完結相の活用として 1SG‘māos’, 2SG‘mēs’, 3SG‘mēs’, 1PL‘mīs’, 2PL‘mēs’, 3PL‘mē’ が挙げられている。一方、Alemayehu A. (2002: 13-14) では過去形の項目として完結相が取り上げられ、「食べる」の活用がすべての人称で moy-ide になると記述されている。いずれも本稿の記述と異なる。

	muj-ine('eat-PF')	
	単数 ((SG))	複数 (PL)
1	muj-ine	muj-ine
	/mo-ode	/muj-ide
2	muj-ine	muj-ine
	/mo-ode	/muj-ide
3M	muj-ine	muj-ine
	/muj-ide	/muj-ide
3F	muj-ine	
	/mo-ode	

	jej-ine('come-PF')	
	SG	PL
1	jej-ine	jej-ine
	/jej-ade	/jej-ide
2	jej-ine	jej-ine
	/jej-ade	/jej-ide
3M	jej-ine	jej-ine
	/jej-ide	/jej-ide
3F	jej-ine	
	/jej-ade	

なお、動詞の語彙アスペクトに関連して、たとえば瞬間相の動詞「落ちる ('fall')」や「灯りがつく ('turn on')」などは通常完結相で使われる ((39)〜(40))。ただし、未来を表す単語がある場合は、稀に非完結相で使われることもある ((41)〜(43))。

(39) skript-i kedd-ine.
pen-NOM fall-3SG.M.PF
'ペンが落ちている。'

(40) ɦat mabrat-i ɸo:-ine.
now light-NOM turn on-3SG.M.PF
'今明かりはついている。'

(41) law skript-i kedd-ire.
early pen-NOM fall-3SG.M.IMPF
'今にもペンが落ちようとしている。'

(42) skript-i ɸetti sa'at gammar(i) kedd-ire.
pen-NOM one hour later fall-3SG.M.IMPF
'ペンは一時間後に落ちているだろう。'

(43) attabo k'am mabrat-i ɸo:-ire.
today night light-NOM turn on-3SG.M.IMPF
'今晩明かりはつくだろう。'

2.1.3 複合時制

過去の未完了の事態を表す場合には、たとえば (44) のように進行過程を表す/-irdon/と存在動詞の完結相を表す/att-ine/を使って複合時制を作る。一方、現在の未完了の事態を表す手段としては、/att-ine/に対応する非完結相/att-ire/を使った複合時制は存在しない。なぜなら通常の非完結相/-ine/で現在の未完了の事態を表せるからである。なお、未来時制の形態自体がないので、未来の進行過程を表すという複合時制も当然ない。未来の事態は (45) のようにすべて非完結相で表されることになる。

複合時制の動詞活用

	SG	PL
1	-andon/-and don att-ine	-irdon att-ine
2	-ardon att-ine	-irdon att-ine
3M	-irdon att-ine	-irdon att-ine
3F	-ardon att-ine	

nabbab-ire('read')

	SG	PL
1	nabbab-andon/-and don att-ine	nabbab-irdon att-ine
2	nabbab-ardon att-ine	nabbab-irdon att-ine
3M	nabbab-irdon att-ine	nabbab-irdon att-ine
3F	nabbab-ardon att-ine	

(44) ij-i zina:bo matsa:ɸ nabbab-irdon att-ine.
3SG.M-NOM yesterday book-ACC read-INF be-3SG.M.PF
'彼は昨日本を読んでいた。'

(45) nu:n-i giabo ka:mol-bara baske:t lukk-ire.
1PL-NOM tomorrow car-INSTR Baskeet go-1PL.IMPF
'我々は明日車でバスケトに行く。'

2.2 態

2.2.1 受身・相互・再帰・自発

態については乾 (2006) ですでに論じているので、ここではまず受身、相互、再帰のそれぞれの用法について簡単に説明した後、2006 年 3 月の調査で判明した自発の用法について言及する。

受身と相互と再帰はそれぞれ、動詞語幹に同じ/-int/を接辞させることで作り出される。

受身　受身文の動作主は具格/-bara/で標示される（(47), (49)）。なお、動作主は人間名詞よりも動物名詞で省略される傾向が強い（(50)〜(51)）。

(46) ɸik'r-i　meskeremi-ana bukk-ine.
Fiqre-NOM Meskerem-ACC hit-3SG.M.PF
'フィクレはメスケレムを叩いた。（能動文）'

(47) meskerem-a　ɸik'ri-bara bukk-int-ade.
Meskerem-NOM Fiqre-INSTR hit-PASS-3SG.F.PF
'メスケレムはフィクレに叩かれた。（受身文）'

(48) meskerem-a　ɸik'r-i　bukk-ade.
Meskerem-NOM Fiqre-ACC hit-3SG.F.PF
'メスケレムはフィクレを叩いた。（能動文）'

(49) ɸik'r-i　meskeremi-bara bukk-int-ide.
Fiqre-NOM Meskerem-INSTR hit-PASS-3SG.M.PF
'フィクレはメスケレムに叩かれた。（受身文）'

(50) ɸik'r-i　kani-bara ɗak'-int-ide.
Fiqre-NOM dog-INSTR bite-PASS-3SG.M.PF
'フィクレは犬にかまれた。'

(51) ɸik'r-i　(biːni-bara)　ɗak'-int-ine.
Fiqre-NOM (mosquito-INSTR) bite-PASS-3SG.M.PF
'フィクレは蚊にかまれた。'

相互　相互文の場合も、受身文同様、/-int/を動詞語幹につけることで作り出される。また基本的に主格名詞句は複数で現れ、人称語尾もそれに呼応する（(52)〜(55)）。

(52) ɸik'r-i　ki　meskerem-i　ki　bukk-int-ine.
Fiqre-NOM and Meskerem-NOM and hit-REC-3PL.PF
'フィクレとメスケレムは叩きあった。'

(53) zinaːbo taːn-i ki neːn-i ki bukk-int-ine.
yesterday 1SG-NOM and 2SG-NOM and hit-REC-1PL.PF
'昨日私とおまえは叩き合った。'

(54) neːn-i ki ij-i ki bukk-int-ine.
2SG-NOM and 3SG-NOM and hit-REC-2PL.PF
'おまえと彼は叩き合った。'

(55) ɸik'r-i ki meskerem-i ki dos-int-ire.
Fiqre-NOM and Meskerem-NOM and love-REC-3PL.IMPF
'フィクレとメスケレムは愛し合っている。'

ところで売買行為[9]の場合には動詞が複数人称語尾を取る点は変わらないけれども、(56) のように動作主にあたる主格名詞句の方が通常表層に出てこない。

(56) gab-itti bun-i wong-int-ire.
market-LOC coffee-ACC sell&buy-REC-3PL.IMPF
'マーケットでコーヒーを売り買いする。'

再帰 再帰文の場合は、(57) のように動詞語幹にこの/int-/という接辞をつける方法以外に、(58) のように galla「体」という一般名詞を使う方法が一般的である[10]。

(57) taːn-i meːtʃ'-int-ine.
1SG-NOM wash-REF-1SG.PF
'私は自分の体を洗った。'

(58) taːn-i ta galla meːtʃ'-ine.
1SG-NOM 1SG.POSS body-ACC wash-1SG.PF
'私は私の体を洗った。'

(59) taːn-i i galla meːtʃ'-ine.
1SG-NOM 3SG.POSS body-ACC wash-1SG.PF
'私は彼の体を洗った。'

[9]バスケト語の「売る」と「買う」は、同じ wongire という動詞を使う。

[10]ところで、k'ommabo 「自身」という単語を使って再帰代名詞のように表現することも可能ではある。しかしその場合は、「他のものではなく、私の体」という対照の意味が加わり、有標な表現になってしまいあまり使われない。これを動詞の再帰形と共存させると、さらに有標になり「私自身」の部分がかなり強調され、通常使われることはまずない。つまり、バスケト語の文法体系内で k'ommabo が再帰代名詞として機能している証拠はなく、再帰代名詞というものを一つの文法カテゴリーとして設定する必然性がない。詳細は乾 (2006) 参照のこと。

自発　ところで、乾 (2006) では自発の用法を確認できないとしていたが、2006 年 3 月の調査で (60) のような自発の例文を採取した。

(60) ij-i　wohi　dur　mak'-iza(-di) as-ants-abo k'opp-int-ire.
3SG.M.NOM future rich become-INF　man-PL-DAT think-SPON-3SG.M.IMPF
'彼は将来金持ちになると人びとに思われている。'

ただし、zakkire「感じる」という動詞の場合は/-int/は使われないようである。

(61) ta:n-i　ir　ʒammar-iz kal　zakk-ire
1SG.M.-NOM rain start-INF　season feel-1SG.IMPF
'私は雨期が始まったと感じる。'

2.2.2　使役

使役文は、使役者の動作主に対する「強制」と「許可」の違いにより形態が異なって現れる。「強制」の場合は、使役の形態素/-is/をつける（(63)〜(65)）。一方、「許可」の場合は、不定形の接辞/-anɸen/を動詞語幹につけ、動詞 wot-ire「させる ('let')」と複合させることで作り出される（(66)〜(69)）。

強制

(62) ɸik'r-i　gabi　lukk-ide.
Fiqre-NOM market go-3SG.M.PF
'フィクレはマーケットに行った。'

(63) meskerem-a　ɸik'r-i　gabi　lukk-is-ade.
Meskerem-NOM Fiqre-ACC market go-CAUS-3SG.F.PF
'メスケレムはフィクレをマーケットに行かせた。'

(64) ta:n-i　ija-na　irat　muj-is-ade.
1SG-NOM 3SG.M-ACC supper eat-CAUSE-1SG.PF
'私は彼に夕食を食べさせた。'

(65) ta:n-i　ija-na　addis ababa lukk-is-ine.
1SG-NOM 3SG.M-ACC addis ababa go-CAUS-1SG.PF
'私は彼をアジスアベバに行かせた。'

許可

(66) meskerem-a ɸik'r-i gabi lukk-anɸen wot-ade.
Meskerem-NOM Fiqre-ACC market go-INF let-3SG.F.PF
'メスケレムはフィクレにマーケットへ行かせた。'

(67) ta:n-i ija-na gabi lukk-anɸen wot-ade.
1SG-NOM 3SG.M-ACC market go-INF let-1SG.PF
'私は彼にマーケットへ行かせた。'

(68) ta:n-i ija-na irat muj-anɸen wot-ade.
1SG-NOM 3SG.M-ACC supper eat-INF let-1SG.PF
'私は彼に夕食を食べさせた。'

(69) ta:n-i ija-na addis ababa lukk-anɸen wot-ade.
1SG-NOM 3SG.M-ACC addis ababa go-INF let-1SG.PF
'私は彼にアジスアベバへ行かせた。'

2.3 法

バスケト語の場合、形態的にみて法を表す接辞形態素がなく、人称標示おいて体系立っているわけでもないので、法 (mood) と呼ぶのは適切ではない。ここでは命令、およびいくつかの法の助動詞について言及する。

2.3.1 命令

命令文は２人称単数および複数で使われる。ただし命令形を表す特別な形態は存在せず、通常の２人称の形態（非完結相・完結相）を用いる。人称代名詞が脱落する点が通常の文と異なる点である[11]。

非完結相による命令　２人称単数および複数の人称語尾は以下の通りである。なお、２人称複数は単数の敬称にもなる。

人称	語尾
2SG	-abe
2PL	-ibte

[11]Cerulli (1938: 105) には、肯定の命令として/-a/という特別な形態が紹介されているが、本稿の記述とは異なる。一方、Alemayehu A. (2002: 18) には、２人称単数/-be/、２人称複数/-te/という形態が紹介されている。ただし不規則変化動詞の「食べる」を例にしているため、形態素の切れ目を誤分析している。

2SG	2PL	
uʃk-abe!	uʃk-ibte!	「飲め ('drink!')」
surk'-abe!	surk'-ibte!	「寝ろ ('sleep!')」
do'-abe!	do'-ibte!	「座れ ('sit!')」

(70) law surk'-abe!
early sleep-2SG.IMPER
'はやく寝ろ！'

(71) law surk'-ibte!
early sleep-2PL.IMPER
'はやく寝てください！(2人称単数の敬称)'

完結相による命令 アスペクト的にみて瞬間相の動詞（以下の例では「落ちる ('fall')」や「切る ('cut')」）の命令は完結相で現れる。また非完結相同様、2人称複数は単数の敬称にもなる。

人称	語尾
2SG	-ine
2PL	-ade/-ide

2SG	2PL	
kedd-ine!	kedd-ade!/kedd-ide!	「落ちろ ('fall!')」
k'atts'-ine!	k'atts'-ade!/k'atts'-ide!	「切れ ('cut!')」

2.3.2 法の助動詞

願望の助動詞 願望を表す助動詞は koj-are「～したい ('want')」で、一般に不定形/-and/に接続する（(72)～(74)）。ただし対格名詞句が定の場合は (75) のように/-andabo/に接続する。また (72) のように稀に不定形/-i/に接続することもあるけれども、許容度は落ちる。

(72) ta:n-i gabi lukk-and/??lukk-i koj-are.
1SG-NOM market go-INF want-1SG.IMPF
'私はマーケットに行きたい。'

koj-are('want')		
	SG	PL
1	koj-are	koj-ire
2	koj-are	koj-ire
3M	koj-ire	koj-ire
3F	koj-are	

(73) ta:n-i u:ɸ muj-and/mond koj-are.
1SG-NOM injera-ACC eat-INF want-1SG.IMPF
'私はインジェラを食べたい。'

(74) ta:n-i matsa:ɸ nabbab-and koj-are.
1SG-NOM book-ACC read-INF want-1SG.IMPF
'私は本を読みたい。'

(75) ta:n-i matsa:ɸa-ad-a nabbab-andabo koj-are.
1SG-NOM book-DEF-ACC read-INF want-1SG.IMPF
'私はその本を読みたい。'

なお2人称が動作主になる依頼願望の場合は、通常命令形を使うので、(76)のような/koj-are/を使った文は作れない[12]。一方、誰かに依頼する場合は、不定形が/-anɸen/に変わる（(77)〜(78)）。

(76) *ne:n-i gabi lukk-and koj-are.
2SG-NOM market go-INF want-2SG.IMPF
'あなたはマーケットに行きたい'

(77) ta:n-i ija-na gabi lukk-anɸen kaj-are.
1SG-NOM 3SG.M-ACC market go-INF want-1SG.IMPF
'私は彼にマーケットに行ってほしい。'

(78) ta:n-i ija-na matsa:ɸ nabbab-anɸen koj-are.
1SG-NOM 3SG.M-ACC book-ACC read-INF want-1SG.IMPF
'私は彼に本を読んでほしい。'

「〜したくない」という否定の願望表現は以下のように2通りある。(79)はkoj-areの側を否定した表現（「〜したくない」）で、(80)の方は不定詞の側を否

[12]もし可能にするためには、前に ta:ni erare「私は知っている」をつける必要がある。

定した表現（「～しないでいたい」）である。後者には受身形/-int/を使った形式が使われる。両者の意味の違いは、たとえば、ruz「米」やdabbo「パン」の方がインジェラより胃のために良い場合などに、「できることならインジェラを食べないで済ませたい」という意味で、婉曲的に断る際などに後者の表現が選ばれる。

(79) ta:n-i u:ɸ muj-and koj-abase.
1SG-NOM injera-ACC eat-INF want-NEG-1SG.IMPF
'私はインジェラを食べたくない。'

(80) ta:n-i u:ɸ muj-int-akaj-ɸen koj-are.
1SG-NOM injera-ACC eat-PASS-NEG-INF want-1SG.IMPF
'私はインジェラを食べないでいたい。'

ところで、対格標示の/-i/に関して、次のような事実がある。(81)の/u:ɸ/「インジェラ」を(82)のように「私の母が作った」という限定を加えて定の表現にする[13]と、対格標示の/-i/が義務的に出てくる。もしかすると/-i/は焦点(focus)機能の可能性もある。

(81) ta:n-i u:ɸ muj-and koj-are.
1SG-NOM injera-ACC eat-INF want-1SG.IMPF
'私はインジェラが食べたい。'

(82) ta:n-i ta ind-i u:k-ino u:ɸ-i muj-and koj-are.
1SG-NOM 1POSS mother-NOM make-REL injera-ACC eat-INF want-1SG.IMPF
'私は私の母が作ったインジェラが食べたい。'

可能・推量の助動詞 「可能・推量の助動詞」は、cha:l-areあるいはdanda'-areである[14]。その不定形は、(83)のように/-and/(および/-andabo/)と/-i/の両形とも可能である。

(83) ta:n-i gabi lukk-and/lukk-i cha:l-are.
1SG-NOM market go-INF can-1SG.IMPF
'私はマーケットに行くことができる。'

[13]「赤いインジェラ」や「この赤いインジェラ」に替えても、/zok'ats u:ɸ-i/や/fia zok'ats :ɸ-i/のように/-i/が出てくる。
[14]cha:l-areはアムハラ語からの借用語である。

	cha:l-are('can')	
	SG	PL
1	cha:l-are	cha:l-ire
2	cha:l-are	cha:l-ire
3M	cha:l-ire	cha:l-ire
3F	cha:l-are	

	danda'-are('can')	
	SG	PL
1	danda'-are	danda'-ire
2	danda'-are	danda'-ire
3M	danda'-ire	danda'-ire
3F	danda'-are	

義務の助動詞　「義務の助動詞」は bes-are である。その不定形は (84) のように/-and/が基本である。/-andabo/が使われるのは、(85) のように「あなたのために (ne giʃ)」などの理由がある場合にのみである。なお、(86) のような/-i/は許容されない。

	bes-are('must')	
	SG	PL
1	bes-are	bes-ire
2	bes-are	bes-ire
3M	bes-ire	bes-ire
3F	bes-are	

(84) ta:n-i　gabi　lukk-and bes-are.
1SG-NOM market go-INF　must-1SG.IMPF
'私はマーケットに行かなければならない。'

(85) ta:n-i　ne giʃ　gabi　lukk-andabo bes-are.
1SG-NOM 2SG-for market go-INF　must-1SG.IMPF
'私はあなたのためにマーケットに行かなければならない。'

(86) *ta:n-i　gabi　lukk-i bes-are.
1SG-NOM market go-INF must-1SG.IMPF
'私はマーケットに行かなければならない。'

必要の助動詞　必要を表す助動詞は koʃ-are である。その不定形は (87) のように/-and/が基本である。また、理由がある場合は、(88) のように/-andabo/形も認められる。ただし、(89) のような/-i/形は許されない。

koʃ-are('need')		
	SG	PL
1	koʃ-are	koʃ-ire
2	koʃ-are	koʃ-ire
3M	koʃ-ire	koʃ-ire
3F	koʃ-are	

(87) ta:n-i gabi lukk-and koʃ-are.
1SG-NOM market go-INF need-1SG.IMPF
'私はマーケットに行く必要がある。'

(88) ta:n-i ne giʃ gabi lukk-andabo koʃ-are.
1SG-NOM market go-INF need-1SG.IMPF
'私はマーケットに行く必要がある。'

(89) *ta:n-i gabi lukk-i koʃ-are.
1SG-NOM market go-INF need-1SG.IMPF
'私はマーケットに行く必要がある。'

好みの助動詞 「好み」の表現も不定形を取るので、ここで一緒に扱うことにする。「〜が好きである ('like to')」は、バスケト語では dos-are という動詞を使う。その不定形は/-and/が基本であるが、それ以外に (90) のようにいくつかの異形態が認められる[15]。

dos-are('like')		
	SG	PL
1	dos-are	dos-ire
2	dos-are	dos-ire
3M	dos-ire	dos-ire
3F	dos-are	

(90) ta:n-i u:ɸ muj-and/mond/muj/muj-andabo dos-are.
1SG-NOM injera eat-INF like-1SG.IMPF
'私はインジェラを食べるのが好きである。'

[15]全体として、活用形は統一される方向にあり、とりわけ 2 人称の活用が合流する傾向があるようである。

2.4 品詞変換

2.4.1 名詞の動詞化

名詞を動詞化した場合は、人称に関係なく同じ語尾になる（(91)〜(92)）[16]。ただし、(93) の例からわかるように、単数・複数の違いは存在する。また、過去を表す場合は、名詞に/-don/をつけて、attine と複合させて表すことになる（(94)〜(96)）[17]。

(91) ta:n-i astamar-e.
1SG-NOM teacher-be
'私は教師である。'

(92) ij-i fiat asga:r-e.
3SG.M-NOM now fisherman-be
'彼は今は漁師である。'

(93) nu:n-i astamar-ants-e.
1PL-NOM teacher-PL-be
'我々は教師である。'

(94) ta:n-i hisab astamari-don att-ine.
1SG-NOM mathematics teacher-INF be-1SG.PF
'私は数学教師であった。'

(95) ne:n-i zal'anch-don att-ine.
2SG-NOM merchant be-2SG.PF
'あなたは商人であった。'

(96) ta:n-i asga:ra-don att-ine.
1SG-NOM fisherman-INF be-1SG.PF
'私は漁師であった。'

---

[16] Alemayehu A. (2002: 8) には、英語の "to be"に対応する例として、バスケト語には英語のようなコピュラが存在しないことについて言及されている。

[17] なお、この形態と通常の動詞活用との違いは、たとえば動詞「教える (astamar-ire)」では、現在のことを表す場合に非完結相、過去のことを表す場合に複合時制を用いることになる。
ta:ni hisab astamarare.「私は数学を教える。」
ne:ni hisab astamarabe.「あなたは数学を教える。」
ta:ni hisab astamarandon attine.「私は数学を教えていた。」
ne:ni hisab astamarardon attine.「あなたは数学を教えていた。」

2.4.2 形容詞の動詞化

形容詞を動詞化する場合、以下のように派生させる。その際の語幹の形は形容詞毎に微妙に異なっている。また、形容詞は語彙アスペクトとしては状態相なので、動詞化された場合も現在その状態が続いていることを表す際には完結相が使われる。ただし、未来について言及する場合に限って、非完結相が使われることになる（(97)〜(98)）。

koʃk-ine('be good-PF') < koʃ(adj.)

	SG	PL
1	koʃk-ine	koʃk-ine
	/koʃk-ade	/koʃk-ide
2	koʃk-ine	koʃk-ine
	/koʃk-ade	/koʃk-ide
3M	koʃk-ine	koʃk-ine
	/koʃk-ide	/koʃk-ide
3F	koʃk-ine	
	/koʃk-ade	

i:t-ine('be bad-PF') < i:t(adj.)

	SG	PL
1	i:t-ine	i:t-ine
	/i:t-ade	/i:t-ide
2	i:t-ine	i:t-ine
	/i:t-ade	/i:t-ide
3M	i:t-ine	i:t-ine
	/i:t-ide	/i:t-ide
3F	i:t-ine	
	/i:t-ade	

k'ojis-ine「('be beautiful-PF')」< k'ojsir(adj.)

	SG	PL
1	k'ojis-ine/k'ojis-ade	k'oyis-ine/k'ojis-ide
2	k'ojis-ine/k'ojis-ade	k'ojis-ine/k'ojis-ide
3M	k'ojis-ine/k'ojis-ide	k'ojis-ine/k'ojis-ide
3F	k'ojis-ine/k'ojis-ade	

(97) attabo niφas-a i:te, giabo koʃk-ire.
today weather-ABS be bad tomorrow be good-3SG.M.IMPF
'今日は天気が悪いが、明日はよくなるだろう。'

(98) ta na'in uha k'ojis-are.
1SG.POSS girl-NOM future be beautiful-3SG.F.IMPF
'私の娘は将来美しくなるだろう。'

2.5 派生動詞

2.5.1 自動詞の他動詞化

自動詞の他動詞化について取り上げる。自動詞から他動詞を作り出すには、使役形態素/-is/と同じ/s/の要素をつける。ただ完全には形態素として確立していないので、個々の動詞毎に若干の違いが見られる。

自動詞 (vi.)		他動詞 (vt.)	
ɸoː-ine	「(電気が) つく」	ɸoː-is-ine	「(電気を) つける」
tejkk'-ine	「(電気が) 消える」	tejs-ine	「(電気を) 消す」
mekk'-ine	「割れる」	ments-ine	「割る」
dar'-ine	「破れる」	dar-s-ine	「破る」
keːts'-ine	「建つ」	keːts'-is-ine	「建てる」

2.5.2 反復

反復動詞について取り上げる。反復を表す形態素は/-irits-/である。以下に例を挙げる。

動詞 (v.)		反復動詞 (iter.)	
butʃ'-ire	「振る」	butʃ'-irits-ire	「何度も振る」
k'atts'-ire	「切る」	k'ats'-irits-ire	「何度も切る」
bukk-ire	「叩く」	bukk-irits-ire	「何度も叩く」
k'akk-ire	「蹴る」	k'akk-irits-ire	「何度も蹴る」

(99) ɸik'r-i meskerem-i bukk-irits-ine.
Fiqre-NOM Meskerem-ACC hit-ITER-3SG.M.PF
'フィクレはメスケレムを何度も叩いた。'

2.6 疑問文

2.6.1 WH疑問文の動詞形

疑問に関しては、非完結相と完結相で異なる動詞の活用形を持つ。イントネーションは文頭で上がるか、文末直前で上がるかどちらかである。

非完結相 非完結相は、2人称単数および3人称女性単数で/-ara/、3人称男性単数、2人称複数、3人称複数で/-ira/となる。なお、疑問詞が主格の場合は3人称男性単数で代表させる。以下に例を挙げる((100)〜(105))。

非完結相の疑問形

	SG	PL
2	-ara	-ira
3M	-ira	-ira
3F	-ara	

(100) ant ne/ne:n-i lukk-ara?
when 2SG-NOM go-2SG.IMPF
'おまえはいつ行くの？'

(101) ant ij-i lukk-ira?
when 3SG.M-NOM go-3SG.M.IMPF
'彼はいつ行くの？'

(102) ant iz-i lukk-ara?
when 3SG.F-NOM go-3SG.F.IMPF
'彼女はいつ行くの？'

(103) ant jint-i lukk-ira?
when 2PL-NOM go-2PL.IMPF
'あなたがたはいつ行くの？'

(104) ant int-i lukk-ira?
when 3PL-NOM go-3PL.IMPF
'彼らはいつ行くの？'

(105) giabo o: jej-ira?
tomorrow who come-3SG.M.IMPF
'明日誰が来る？'

完結相 完結相は、2人称単数で/-i/、3人称男性単数で/-e/、3人称女性単数で/-a/、2人称および3人称複数で/-ina/のそれぞれの形態を取る。動詞を複数形にすると、2人称単数、および3人称単数男女とも敬称になる。以下に例を挙げる（(106)〜(111)）。なお、質問と答えは、たとえば(112)と(113)ようになる。

完結相の疑問形

2SG	-i	2PL	-ina
3SG.M	-e	3PL	-ina
3SG.F	-a		

(106) ant ne/ne:n-i lukk-i?
when 2SG-NOM go-2SG.PF
'おまえはいつ行ったか？'

(107) ant ij-i lukk-e?
when 3SG.M-NOM go-3SG.M.PF
'彼はいつ行ったか？'

(108) ant iz-i lukk-a?
when 3SG.F-NOM go-3SG.F.PF
'彼女はいつ行ったか？'

(109) ant int-i lukk-ina?
when 3PL-NOM go-3PL.PF
'彼らはいつ行ったか？'

(110) ant ij-i lukk-ina?
when 3SG.M-NOM go-3PL.PF
'彼はいつ行きましたか？'

(111) ant iz-i lukk-ina?
when 3SG.F-NOM go-3PL.PF
'彼女はいつ行きましたか？'

(112) zinaːbo abzab ne jej-i?
yesterday why 2SG-NOM come-2SG.PF
'昨日おまえはなぜ来た？'

(113) taːn-i nabbab-andabo jej-ine.
1SG-NOM write-INF come-1SG.PF
'私は調査に来た。'

ところで疑問詞が主格に来た場合、非完結相同様、(114) のように 3 人称男性単数で代表させる。この場合も (115) のように複数標示させると敬称に変わる。なお、来る人が女性とわかっている場合に 3 人称女性形が使えるかどうかインフォーマントに聞いたところ、かなり判断が揺れたが最終的に (116) のような文は許容されないとの結論に達した。

(114) zinaːbo oː jej-e?
yesterday who-NOM come-3SG.M.PF
'昨日誰が来たか？'

(115) zina:bo o: jej-na?
yesterday who-NOM come-3PL.PF
'昨日誰が来られましたか？（敬称）'

(116) *zina:bo o: jej-a?
yesterday who-NOM come-3SG.F.PF
'昨日は誰（女性）が来たか？'

2.6.2 YES-NO疑問文の動詞形

YES-NO疑問文の場合も、非完結相と完結相の違いによって形態が異なる。非完結相では2種類の人称語尾の違いがあるのに対して、完結相では人称による違いが見られない。なおYES-NO疑問文のイントネーションは文末の直前で上がる。

肯定疑問文（非完結相） 非完結相の肯定疑問文の人称語尾は、1人称単数/-o/、2人称単数/-anda/、3人称男性単数/-ira/、3人称女性単数/-ara/、1人称複数/-ane/、2人称および3人称複数/-ante/となり、人称語尾が概ね機能している[18]。以下に例を挙げる（(117)〜(120)）。

肯定疑問文の非完結相

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	-o	-ane
2	-anda	-ante
3M	-ira	-ante
3F	-ara	

(117) mi:ʃ-i imm-o?
money-ACC give-1SG.IMPF
'私は金を与える？'

(118) mi:ʃ-i imm-anda?
money-ACC give-2SG.IMPF
'あなたはお金を与える？'

(119) mi:ʃ-i imm-ira?
money-ACC give-3SG.M-IMPF
'彼はお金を与える？'

[18]Cerulli(1938: 105)には、非完結相として2人称単数で/-ay/あるいは/-e/、2人称複数で/-ni/あるいは/-one/という形態素が紹介されているが、本稿の記述とは異なる。

(120) mi:ʃ-i imm-ara?

money-ACC give-3SG.F-IMPF

'彼女はお金を与える？'

否定疑問文（非完結相） 非完結相の否定疑問文の人称語尾は、1人称単数、2人称単数、3人称女性単数で/-abasa/、3人称男性単数およびすべての人称の複数で/-ibasa/となる。以下に例を挙げる（(121)〜(124)）。

否定疑問文の非完結相

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	-abasa	-ibasa
2	-abasa	-ibasa
3M	-ibasa	-ibasa
3F	-abasa	

(121) mi:ʃ-i imm-abasa?

money-ACC give-1SG.NEG.IMPF

'私は金を与えない？'

(122) mi:ʃ-i imm-abasa?

money-ACC give-2SG.NEG.IMPF

'おまえは金を与えない？'

(123) mi:ʃ-i imm-ibasa?

money-ACC give-3SG.M.NEG.IMPF

'彼はお金を与えない？'

(124) mi:ʃ-i imm-abasa?

money-ACC give-3SG.F.NEG.IMPF

'彼女はお金を与えない？'

肯定疑問文（完結相） 完結相の肯定疑問文の語尾は、(125)のように人称に関係なくすべて/-ina/である[19]。

(125) mi:ʃ-i imm-ina?

money-ACC give-1SG/2SG/3SG.M/3SG.F.PF

'私/おまえ/彼/彼女はお金を与えたか？'

[19]Cerulli (1938: 105) には、2人称単数で/-adi/あるいは/-ade/、3人称単数で/-áti/あるいは/-ide/という形態が紹介されているが、本稿の記述とは異なる。

肯定疑問文の完結相

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	-ina	-ina
2	-ina	-ina
3M	-ina	-ina
3F	-ina	

否定疑問文（完結相）　完結相の否定疑問文の語尾は、(126) のように人称に関係なくすべて/-akka/である。

否定疑問文の完結相

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	-akka	-akka
2	-akka	-akka
3M	-akka	-akka
3F	-akka	

(126) mi:ʃ-i　　imm-akka?
money-ACC give-1SG/2SG/3SG.M/3SG.F.NEG.PF
'私/おまえ/彼/彼女はお金を与えなかった？'

2.7　否定文

否定文も非完結相/-base/と完結相/-kkaje/で形態が異なる。

2.7.1　否定文（非完結相）

非完結相の否定文は、1人称単数、2人称単数、3人称女性単数で/-abas(e)/、3人称男性単数およびすべての人称の複数で/-ibas(e)/となる[20]。また語末の/e/を/a/に変えると疑問文になる。質問と答えを (127)〜(129) に挙げる。

(127) lukk-abasa?
go-2SG.NEG.INTRO.IMPF
'おまえは行かないのか？'

[20]Cerulli (1938: 104) では、非完結相の否定として/-akke/という形態が紹介されているが、本稿の記述と異なる。一方、Alemayehu A. (2002: 15-17) には現在形および未来形の否定として非完結相が挙げられており、/-base/が紹介されている。ただし「食べる」という動詞を例にしているため、語幹に続く母音の人称による違いを見逃している。

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	-abas(e)	-ibas(e)
2	-abas(e)	-ibas(e)
3M	-ibas(e)	-ibas(e)
3F	-abas(e)	

(128) a:, lukk-abase.

yes go-1SG.NEG.IMPF

'ええ、私は行きません。'

(129) a:, luk-anda.

yes go-1SG.IMPF

'ええ、私は行きます。'

なお、一部不規則に変化する動詞があるのでその活用も挙げておく。

mujabas(e)('don't eat')

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	muj-abas(e)/mo-obas(e)	muj-ibas(e)
2	muj-abas(e)/mo-obas(e)	muj-ibas(e)
3M	muj-ibas(e)	muj-ibas(e)
3F	muj-abas(e)/mo-obas(e)	

baje('not')

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	baje	baje
2	baje	baje
3M	baje	baje
3F	baje	

2.7.2 否定文（完結相）

完結相の否定文は、すべての人称で-/-akkaj(e)/となる。ここでも人称語尾は機能していない[21]。なお、語末の/e/を/a/に変えると疑問文になる。以下に簡単

[21]Cerulli (1938: 104) には、完結相の否定として/-ikke/という形態が紹介されている。一方、Alemayehu A. (2002: 14-15) では過去の否定として完結相が紹介され、/-kkaye/という形態が紹

な質問と答えの文を挙げておく（(130)〜(132)）。

	単数 (SG)	複数 (PL)
1	-akkaj(e)	-akkaj(e)
2	-akkaj(e)	-akkaj(e)
3M	-akkaj(e)	-akkaj(e)
3F	-akkaj(e)	

(130) lukk-akkaj-a?
go-2SG.NEG.PF-INTRO
'おまえは行かなかったのか？'

(131) aː, lukk-akkaje.
yes go-1SG.NEG.PF
'ええ、私は行かなかった。'

(132) aː, lukk-ine.
yes go-1SG.PF
'ええ、私は行った。'

介されている。いずれも本稿の記述と若干異なる。

3 統語論

統語論に関して、語順、間接話法、関係節、動詞連結、名詞連結、条件節を取り上げる。

3.1 語順

3.1.1 節語順

バスケト語の節語順は、S-O-V である[22]。また節語順以外の語順の主要特徴に関しては、形容詞が名詞に先行し、属格名詞句が名詞に先行、接置詞は後置詞のみである。つまり首尾一貫したSOV型言語である。

ただし、実際にはそう簡単に解釈できない場合がある。以下の (133) と (134) は典型的な他動詞文における２つの名詞句が、S として解釈されるか、それとも O として解釈されるかを示す例である。

(133) kan-i baw-i edɗ-ide.
dog-NOM cat-ACC catch-3SG.M.PF
'犬は猫を捕まえた。(S-O-V)'

(134) baw-i kan-i edɗ-ide.
cat-NOM → ACC dog-ACC → NOM catch-3SG.M.PF
'猫は犬を捕まえた。(S-O-V)' → '猫を犬が捕まえた。(O-S-V)'

たとえば (134) の場合、節語順 S-O-V は統語的に正しくても、「猫が犬を捕まえる」という事態は現実世界には起こり得ない。このような場合には、O-S-V の語順、つまり「猫を犬が捕まえた」として再解釈されることになる。つまり主格と対格がたまたま同じ格標示/-i/になった場合、大抵は意味解釈が統語的な語順よりも優先される。もっともインフォーマントによると、(134) の文を聞いたとき第一感としては「猫が犬を捕まえた」と想像するので、基本語順としては S-O-V と考えても差し支えないであろう。

一方 (135)〜(136) のように格標示において区別できる場合でさえ、S-O-V と O-S-V の両方の解釈が可能である。つまりバスケト語は統語的に S と O の順序に関してそれほど厳格でないことがわかる。それに対して動詞 (V) は、文末の位置から移動できないようである。このことは、動詞の人称語尾が実際にはほとんど機能していないということと関係があると思われる。

[22]バスケト語に「主語」という文法カテゴリーを認めなければならない根拠はない。しかし語順研究の通例に従って、ここでは動作主である主格標示を表す名詞句に対して S という用語を、被動者で対格標示を取る名詞句に対して O という用語をそれぞれ用いる。なお、形態上バスケト語の主格と対格の違いが出ない場合がある。詳細は乾 (2005) 参照。

(135) abbeb-i　na'-a　bukk-ine.
father-NOM son-ACC hit-3SG.M.PF
'父は息子を殴った。(S-O-V)'

(136) na'-a　abbeb-i　bukk-ine.
son-ACC father-NOM hit-3SG.M.PF
'父は息子を殴った。(O-S-V)'

3.1.2　名詞句内の語順

名詞句内の語順に関して、名詞を修飾する形容詞と修飾される名詞の語順は、前述したように、「形容詞＋名詞（AN)」でなければ認められない。

「形容詞＋名詞」
k'oisaz　wuddire
beautiful　girl　「美しい少女」

それに指示詞が付加された場合は、指示詞が形容詞に先行することになる。

「指示詞＋形容詞＋名詞 (SG)」
fianna　k'oisaz　wuddire
this　beautiful　girl　「この美しい少女」
「指示詞＋形容詞＋名詞 (PL)」
fiantsi　k'oisiz-ants　wuddir-antsa
these　beautiful　girls　「これらの美しい少女たち」

さらに数詞が付加された場合は、指示詞が先頭であることは変わらないけれども、形容詞と数詞の順序は変更可能となる[23]。

「指示詞＋（数詞＋形容詞／形容詞＋数詞）＋名詞 (PL)」
fiantsi　fiajdzi　k'oisiz-ants/k'oisiz　wuddir-antsa
these　three　beautiful　girls
「この３人の美しい少女たち」
fiantsi　k'oisiz-ants/k'oisiz　fiajdzi　wuddir-antsa
these　beautiful　three　girls
「この美しい３人の少女たち」

[23]k'oisiz は形容詞の複数の短縮形である。

ところで所有人称代名詞が付加された場合、形容詞と名詞の名詞句内での語順に変化が生じる。所有人称代名詞と数詞と形容詞の3つの要素はそれぞれ順序を入れ替えることが可能であるが、修飾される側の名詞は常に所有人称代名詞のすぐ後に来なければならない。そのため、所有代名詞が形容詞に先行する場合に限っては、名詞と形容詞の語順が逆の「名詞＋形容詞(NA)」になって現れる。

「所有人称代名詞＋名詞＋数詞＋形容詞」

ta-na'-ants	iʃin-ants	gill-ants	
my children	five	small	「私の子供＋５人の＋小さな」
ta-kut-ants	ɦajdz-ants	koʃ-ants	
my chickens	three	good	「私の鶏＋３匹の＋よい」

上記例のように所有人称代名詞と名詞が形容詞より先に現れた場合、通常後ろの語順は「数詞＋形容詞」になる。この場合、形容詞の複数標示/-ants/は必須である。しかしながらインフォーマントによれば、複数標示の一致がありさえすれば、前述の「私の・三匹の・良い・鶏」という名詞句は、以下の６通りの語順の組み合わせすべてが可能という。ただしそこには有標性があって、1,2 ＞ 3,4 ＞ 5,6 の順に好まれる傾向にある。

1. 所有人称代名詞＋名詞－数詞－形容詞
   ta-na'-ants iʃin-ants gill-ants
2. 所有人称代名詞＋名詞－形容詞－数詞
   ta-na'-ants gill-ants iʃin-ants
3. 数詞－所有人称代名詞＋名詞－形容詞
   iʃin-ants ta-na'-ants gill-ants
4. 形容詞－所有人称代名詞＋名詞－数詞
   gill-ants ta-na'-ants iʃin-ants
5. 形容詞－数詞－所有人称代名詞＋名詞
   gill-ants iʃin-ants ta-na'-ants
6. 数詞－形容詞－所有人称代名詞＋名詞
   iʃin-ants gill-ants ta-na'-ants

3.2 間接話法

3.2.1 肯定文

間接話法の中の副文が肯定文の場合、表層に出てこない副文の動作主が主文の動作主と同じなのかそれとも被動者と同じなのかの違いにより、主文の被動

者の格標示が変わる。副文の動作主が主文の被動者と一致する場合は対格で示され（(137), (139), (141)）、一方、主文の動作主と一致する場合は与格で示される（(138), (140), (142)）。なお、前者の場合、被動者に対する主文の動作主の強制の度合いに応じて、/-anϕen/「～のように (like)」と/-gej/「～すること (to)」の２つの使い分けがあり、/-anϕen/の方には許可の意味が出てくる。

(137) ta:n-i ija-na lukk-anϕen/lukk-ogej(i) so:l-ade.
1SG-NOM 3SG.M-ACC go-INF tell-1SG.PF
'私は彼に（彼が）行くように話した。'

(138) ta:n-i ij-abo lukk-andagej(i) so:l-ade.
1SG.NOM 3SG.M-DAT go-INF tell-1SG.PF
'私は彼に（私が）行くと話した。'

(139) ij-i iza-na lukk-anϕen/lukk-ogej(i) so:l-ide.
3SG.M-NOM 3SG.F-ACC go-INF tell-3SG.M.PF
'彼は彼女に（彼女が）行くように話した。'

(140) ij-i iz-abo lukk-andagej(i) so:l-ide.
3SG.M-NOM 3SG.F-DAT go-INF tell-3SG.M.PF
'彼は彼女に（彼が）行くと話した。'

(141) iz-i ne:-na(na) lukk-anϕen/lukk-ogej(i) so:l-ade.
3SG.F-NOM 2SG-ACC go-INF tell-3SG.F.PF
'彼女はあなたに（あなたが）行くように話した。'

(142) iz-i ne:-bo lukk-andagej(i) so:l-ade.
3SG.F-NOM 2SG-DAT go-INF tell-3SG.F.PF
'彼女はあなたに（彼女が）行くと話した。'

3.2.2 否定文

間接話法の中の副文が否定文の場合も、肯定文同様、表層に出てこない副文の動作主が主文の動作主と同じなのかそれとも被動者と同じなのかの違いにより、主文の被動者の格標示が対格（(143), (145)）と与格（(144), (146)）で区別される。また不定形はそれぞれ２種類現れる。副文の動作主が主文の被動者と一致する対格の場合、不定形は/-kkaj-ϕen/形で「許可」、/-ppo-geji/形で「強制」の意味にそれぞれなる。一方、副文の動作主が主文の動作主と一致する与格の場合、/-base-gej/形と/-bda-gej/形の２種類が現れるが両者に意味上の違いはない。つまり/–ϕen/に「許可」の意味があるのであり、/-base/形と/-bda/形の間には今のところ意味の違いは見つけ出せない。

(143) ij-i ta:-na(na) je-kkaj-ϕen/je-ppo-geji so:l-ine.
3SG.M-NOM 1SG-ACC come-NEG-INF tell-3SG.M.PF
'彼は私に（私が）来ないように話した。'

(144) ij-i ta-abo jeja-base-gej(i)/je-bda-gej(i) so:l-ine.
3SG.M-NOM 1SG-DAT come-NEG-INF tell-3SG.M.PF
'彼は私に（彼が）来ないことを話した。'

(145) ij-i ta:-na(na) lukka-kkaj-ϕen/lukka-ppo-gej(i) so:l-ine.
3SG.M-NOM 1SG-ACC go-NEG-INF tell-3SG.M.PF
'彼は私に（私が）行かないように話した。'

(146) ij-i ta-abo lukka-base-geji/lukka-bda-gej(i) so:l-ine.
3SG.M-NOM 1SG-DAT go-NEG-INF tell-3SG.M.PF
'彼は私に（彼が）行かないことを話した。'

3.3 関係節

関係節と名詞の語順は「関係節＋名詞」(Rel+N) の順序になり、これも典型的なSOV型言語の特徴である。主格、対格、与格、属格が関係節化される。以下それぞれについて見ていく。

3.3.1 主格名詞句

関係節の中の動詞が非完結相か完結相で形態が異なるので、主格名詞句を例にそれらを違いを説明する。

非完結相 関係節化される名詞句が男性名詞の場合は/-iza/（(147)〜(148)）、女性名詞の場合は/-az/（(149)〜(150)）がそれぞれつく。なお女性名詞の場合、主格名詞句であることをより明示的にするために/-in/がつくことがある。つまり、/-az(in)/の( )で示した/-in/の部分は主格名詞句であることをはっきり明示させるためにある。ただし、その機能はまだ解らないところも多く、もう少し調べてみる必要がある。

(147) wudir-ind-ani bukk-iza na'a-d-ani ta:n-i er-ine.
girl-DEF-ACC hit-IMPF-REL boy-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'少女を叩いている少年を私は知っている。'

(148) sekkaj muj-iza na'sa:-d-ani ta:n-i er-ine.
there eat-IMPF-REL man-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'そこで食べている男性を私は知っている。'

(149) wudir-ind-ani bukk-az(in) na'in-d-ani ta:n-i er-ine.
girl-DEF-ACC hit-IMPF-REL girl-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'少女を叩いている少女を私は知っている。'

(150) sekkaj muj-az(in) asin-d-ani ta:n-i er-ine.
there eat-IMPF-REL woman-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'そこで食べている女性を私は知っている。'

完結相 完結相の場合は、男性名詞と女性名詞の違いはなく、どちらも/-ino/がつく。なお女性名詞の場合には、非完結相同様、/-ino(n)/の（ ）で示した/-n/が主格名詞句であることを明示している。以下に例を挙げる（(151)〜(154)）。

(151) kan-i wod-ino na'as-ad-ani ta:n-i er-ine.
dog-ACC kill-PF-REL man-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'犬を殺した人を私は知っている。'

(152) wudir-inda-ni bukk-ino na'a-d-ani ta:n-i er-ine.
girl-DEF-ACC hit-PF-REL child-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'少女を叩いた子供を私は知っている。'

(153) zina:bo gabi lukk-ino asin-d-ani ta:n-i er-ine.
yesterday market go-PF-REL woman-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'昨日マーケットに行った女性を私は知っている。'

(154) sekkaj surk'-ino(n) asin-d-ani ta:n-i er-ine.
there sleep-PF-REL woman-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'そこで寝ている女性を私は知っている。'

3.3.2 対格名詞句

対格名詞句の関係節化であっても主格名詞句と基本的に同じである。ただし女性名詞の場合、たとえば(155)と(157)を見比べればわかるように、/-in/をつけて/-azin/にすると主格名詞句の関係節化の解釈に変わってしまう。

(155) ɸik'r-i bukk-az asindo ta:n-i er-ine.
Fiqre-NOM hit-IMPF-REL woman-ACC 1SG.-NOM know-1SG.PF
'フィクレが叩いている女を私は知っている。(非完結相)'

(156) ɸik'r-i bukk-ino asin/asin-d-ani ta:n-i er-ine.
Fiqre-NOM hit-PF-REL woman-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'フィクレが叩いた女性を私は知っている。(完結相)'

(157) ɸik'r-ani bukk-azin asin-d-ani ta:n-i er-ine.
Fiqre-ACC hit-PF-REL woman-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'フィクレを叩いている女性を私は知っている。'

ところで対格名詞句であることを示すもう一つの証拠として、(158)の/kuti-n/のように、名詞の語尾に/-n/が現れる。これは対格名詞句の場合義務的で、同時に関係節の動詞の末尾にも/-n/が現れてそれと呼応する[24]。ただし、この/-n/は前述の女性名詞の場合にも現れたので、今のところその機能は判明していない。

(158) zina:bo ta:n-i wong-ino-n kuti-n ɦajk'-ine.
yesterday 1SG-NOM buy-PF.REL chicken-NOM die-3SG.M.PF
'昨日私が買った鶏が死んだ。'

なお、対格名詞句が関係節化される場合、主文の節語順はS-O-VでもO-S-Vでもどちらも可能であるけれども、先に関係節のある名詞句を出す方が好まれる傾向にある。すなわち、(159)の方が(160)よりも好まれる。結果として、O-S-Vの語順の方が無標となる。

(159) kan-i woɗ-ino-n kuti-n na'a-ad-i muj-ine.
dog-NOM kill-PF-REL chicken-ACC child-DEF-NOM eat-3SG.M.PF
'犬が殺した鶏を子供が食べた。(O-S-V)'

(160) na'-a[25] kan-i woɗ-ino-n kuti-n muj-ine.
child-NOM dog-NOM kill-PF-REL chicken-ACC eat-3SG.M.PF
'子供は、犬が殺した鶏を食べた。(S-O-V)'

3.3.3 与格名詞句

関係節化される与格名詞句の例を挙げる((161)〜(163))。

(161) ɸik'r-i dabdabb-i miʃ-az asin-d-ani ta:n-i er-ine.
Fiqre-NOM letter-ACC write-IMPF-REL woman-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'フィクレが手紙を書いている女性を私は知っている。(非完結相)'

(162) ɸik'r-i hisaB tamaris-ino asin-d-ani ta:n-i er-ine.
Fiqre-NOM Math-ACC learn-PF-REL woman-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'フィクレが数学を習っている女性を私は知っている。(完結相)'

(163) ɸik'r-i bun imm-ino asin-d-ani ta:n-i er-ine.
Fiqre-NOM flower-ACC give-PF-REL woman-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'フィクレが花を与えた女性を私は知っている。(完結相)'

[24] 与格名詞句や属格名詞句の関係節化の場合にはこの/-n/は決して現れない。

なお、比較のため、関係節化された名詞句に関して、主文の中での格標示が与格になる場合の例 (164) を挙げておく。

(164) ɸik'r-i bukk-ino asind-abo ta:n-i dabdabb-i miʃ-ine.
Fiqre-NOM hit-PF-REL woman-DAT 1SG-NOM letter-ACC write-1SG.PF
'フィクレが叩いた女性に私は手紙を書いた。'

3.3.4 属格名詞句

属格名詞句が関係節化される例を挙げる。この場合、関係節化される名詞と呼応する形で関係節中に所有代名詞（(165) の例では/izi/）が必ずなければならない。

(165) iz-i ba:b-i astamari makk'-ino asin-d-ani ta:n-i er-ine.
3SG.F.POSS father-NOM teacher become-PF-REL woman-DEF-ACC 1SG-NOM know-1SG.PF
'（彼女の）お父さんが先生である女性を私は知っている。'

3.3.5 分詞形

関係節化に利用された動詞の語尾は、分詞形としても使われる。非完結相形が現在分詞、完結相形が過去分詞にそれぞれ対応する。この場合も/-n/の要素があることで女性名詞であることを表す。また、複数の場合は、形容詞の時と同様、一致を示す。

do'inon asindo	「座っている女 (PF)」
do'ino na'asa:da	「座っている男 (PF)」
do'azin asindo	「座ろうとしている女 (IMPF)」
do'iza na'asa:da	「座ろうとしている男 (IMPF)」
do'izants worjantsa	「座ろうとしている人びと (IMPF)」
ɦajk'inon asindo	「死んでいる女 (PF)」
ɦajk'azin asindo	「死にかけている女 (IMPF)」
ɦajk'iza na'asa:da	「死にかけている男 (IMPF)」
ɦajk'az(in) k'a:tʃ'	「死にかけているアリ (IMPF)」
ɦajk'isants k'aatʃ'antsa	「死にかけているアリたち (IMPF)」

3.4 動詞連結

3.4.1 等位接続

等位接続構造は、前の動詞を非完結相形にすることで作り出される。人称によって語尾が/-a/になるか、/-i/になるかの違いが出る。以下に例を挙げる（(166)〜(170)）。

(166) na'asa-ad-i ajʃa-ad-ani muj-ari, maɗ-ine.
man-DEF-NOM meat-DEF-ACC eat-3SG.M.IMPF be sick-3SG.M.PF
'男は肉を食べて病気になった。'

(167) na'asa-ad-i ajʃa-ad-ani muj-ari, maɗari, ɦajk'-ine.
man-DEF-NOM meat-DEF-ACC eat-3SG.M.IMPF be sick-3SG.M.IMPF die-3SG.M.PF
'男は肉を食べて病気になって死んだ。'

(168) taːn-i aːl lukk-ara, ɸiːʃiː katts-ine.
1SG-NOM house go-IMPF, food-ACC cook-1SG.PF
'私は家に帰って、食べ物を料理した。'

(169) taːn-i bun-i ushk-ara, timirtaːl lukk-ine.
1SG-NOM coffee-ACC drink-IMPF school go-1SG.PF
'私はコーヒーを飲んで、学校に行った。'

(170) taːn-i k'itts'in-i muj-ara, bun-i uʃk-ara, timirtaːl lukk-ine.
1SG-NOM bread-ACC eat-IMPF coffee-ACC drink-IMPF school go-1SG.PF
'私はパンを食べて、コーヒーを飲んで、学校に行った。'

3.4.2 複合動詞

複合動詞は、/-keddi/という形態を使って２つの動詞をつなぐことで作り出され、「～して～した」の意味になる（(171)～(172)）。等位接続との違いは、一連の動作が１つの行為である点である。等位接続の場合、たとえば(171)と比較すると、/gutara, ɸingine/となり、「泳いで、そして渡った」という２つの行為を表す。

(171) taːn-i zinaːbo waːt-i guti-keddi ɸing-ine.
1SG-NOM yesterday river-ACC swim-and cross-1SG.PF
'私は昨日川を泳いでわたった。'

(172) taːn-i zinaːbo goits-i wots'i-keddi aɗɗ-ine.
1SG-NOM yesterday road-ACC run-and cross-1SG.PF
'私は昨日道を走ってわたった。'

一方、単に動詞語幹を/-i/で繋いで作る完全な複合動詞形もあり、たとえば「殴り殺す」は/bukki-woɗ-ire/のようになる。以下に例を挙げる（(173)～(175)）。

(173) ɸik'r-i polis-ad-ani bukki-woɗ-ine.
Fiqre-NOM policeman-DEF-ACC hit-kill-3SG.M.PF
'フィクレはポリスを殴り殺した。'

(174) kaɸ-i ɸudi jizi ɸari-lukk-ine.
bird-NOM upper toward fly-go-3SG.M.PF
'鳥は上の方へ飛んで行った。'

(175) kan-i gedi jizi wots'i-lukkine.
dog-NOM there toward run-go-3SG.M.PF
'犬はあっちの方へ走って行った。'

アスペクト化した動詞 複合動詞に関連して、二つめの動詞が「～始める」や「～終わる」のようにアスペクト化すると、前の動詞は不定形になり、結果として法の助動詞と同じ形態になる。ただし、どのような不定形が来るかは動詞によりばらつきがある[26]。以下に一部の例を挙げる。

muj/munt/*mujand ʒammarine	「食べ始めた (PF)」
mujand/*mund/*muj wotine	「食べ始めた (PF)」
muj/munt/*mujand wursine	「食べ終わった (PF)」
lukki/lukkand ʒammarine	「行き始めた (PF)」
lukkand wotine	「行き始めた (PF)」
do'i ʒammarine	「座り始めた (PF)」
do'and/*do'i wotine	「座り始めた (PF)」

(176) ta:n-i ajʃa-ad-ani muj jammar-ine.
1SG-NOM meat-DEF-ACC eat-INF start-1SG.PF
'私は肉を食べ始めた。'

(177) ta:n-i ajʃa-ad-ani muj wurs-ine.
1SG-NOM meat-DEF-ACC eat-INF end-1SG.PF
'私は肉を食べ終わった。'

3.5 名詞連結

名詞連結は、接続する名詞の後に/ki/をつけることで連結させる。2つ目の名詞の後の/ki/は省略可能である。以下に例を挙げる（(178)～(181)）。

(178) na'asa-ad-i ki i na'a-ad-i ki a:l lukk-ine.
man-DEF-NOM and 3SG.POSS son-DEF-NOM and home go-3PL.PF
'男とその息子は家に帰った。'

[26] ʒammar-ire はアムハラ語からの借用語で、バスケト語本来の動詞は wot-ire である。

(179) miːz-ind-i ki kana-ad-i ki ɦajk'-ine.
COW-DEF-NOM and dog-DEF-NOM and die-3PL.PF
'その雌牛とその犬は死んだ。'

(180) taːn-i na'asa-ad-i ki na'a-ad-i ki bekk'-ine.
1SG-NOM man-DEF-ACC and boy-DEF-ACC and see-1SG.PF
'私はその男とその少年を見た。'

(181) taːn-i miːz-ants-i ki kan-ants-i (ki) wod-ine.
1SG-NOM COW-PL-ACC and dog-PL-ACC (and) kill-1SG.PF
'私は雌牛と犬を殺した。'

3.6 条件節

3.6.1 条件

条件節「もし〜なら（だったら）」を表す際、完結相形では/-iniko/、非完結相形では/-iko/にそれぞれなる。ただし、両者の意味上の違いはあまりない。なお、主節の主格と対格は省略される。以下に例を挙げる（(182)〜(188)）。

(182) ne kut-ants-i taːn-i muj-iniko, tʃ'igg-andabo bes-are.
2SG-POSS chicken-PL-ACC 1SG-NOM eat-PF, pay-INF must-1SG.IMPF
'私はあなたの鶏を食べたなら、支払わなければならない。'

(183) ta kut-ants-i neːn-i muj-iniko, tʃ'igg-andabo bes-are.
1SG.POSS chicken-PL-ACC 2SG-NOM eat-IMPF pay-INF must-2SG.IMPF
'もしあなたが私の鶏を食べるなら、支払わなければならない。'

(184) ta kut-ants-i ij-i muj-iniko, tʃ'igg-andabo bes-ire.
1SG.POSS chicken-PL-ACC 3SG.M-NOM eat-PF, pay-INF must-3SG.M.IMPF
'私の鶏を彼が食べたなら、支払わなければならない。'

(185) ta kut-ants-i iz-i muj-iniko, tʃ'igg-andabo bes-are.
1SG.POSS chicken-PL-ACC 3SG.F-NOM eat-PF, pay-INF must-3SG.IMPF
'私の鶏を彼女が食べたなら、支払わなければならない。'

(186) ne kut-ants-i nuːn-i muy-iniko, tʃ'igg-andabo bes-ire.
2SG-POSS chicken-PL-ACC 1PL-NOM eat-PF, pay-INF must-1PL.IMPF
'あなたの鶏を我々が食べたなら、支払わなければならない。'

(187) nu kut-ants-i jint-i muj-iniko, tʃ'igg-antabo bes-ire.
1PL-POSS chicken-PL-ACC 2PL-NOM eat-PF, pay-INF must-2PL.IMPF
'我々の鶏をおまえたちが食べたなら、支払わなければならない。'

(188) nu kut-ants-i int-i muj-iniko, tʃ'igg-antabo bes-ire.
1PL-POSS chicken-PL-ACC 3PL-NOM eat-PF, pay-INF must-3PL.IMPF
'我々の鶏を彼らが食べたなら、支払わなければならない'

ところで条件節が非完結相であっても完結相であっても、主節が非完結相であれば結果として未来を表す表現になる。以下に例を挙げる((189)〜(192))。

(189) ne:n-i sekkaj lukk-iko, ij-ani deng-are.
2SG-NOM there go-IMPF, 3SG.M-DAT meet-2SG.IMPF
'あなたがそこに行くなら、彼に会うだろう。'

(190) ne:n-i sekkaj lukk-iniko, ij-ani deng-are.
2SG-NOM there go-PF, 3SG-ACC meet-2SG.IMPF
'あなたがそこに行ったなら、彼に会うだろう。'

(191) ta kut-ants-i ne:n-i wuk'-iko, (ta:n-i) (ne:n-a) bukk-are.
1SG.POSS chicken-PL-ACC 2SG-NOM steal-IMPF, (1SG-NOM) (2SG-ACC) hit-1SG.IMPF
'私の鶏をおまえが盗んだら、私はおまえを叩くだろう。'

(192) ta kut-ants-i ne:n-i muj-iko, (ta:n-i) (ne:na) bukk-are.
1SG.POSS chicken-PL-ACC 2SG-NOM eat-IMPF, (1SG-NOM) (2SG-ACC) hit-1SG.IMPF
'私の鶏をおまえが食べるなら、私はおまえを叩くだろう。'

3.6.2 理由

理由を表す条件節は、原因の/-nobo/「〜ので」と目的の/-andabo/「〜するために」の2つがあり、それぞれ次のようになる。

/-nobo/「〜ので」

(193) misi i:t ajʃ muj-nobo/mujno-giʃ, ta milla ɦat uʃ-ire.
lunch bad meat eat-for, 1SG.POSS stomach now be sick-IMPF
'私は昼ご飯に悪い肉を食べたので、今胃の調子が悪い。'

(194) gabi lukki-nobo/lukki-no-giʃ makini adag-i ta:n-i yell-ide.
market go-for car accident-ACC 1SG-NOM happen-1SG.PF
'マーケットに行ったので、交通事故にあった。'

/-andabo/「～するために」

(195) ta:n-i ɸik'r-abo burtukan-i wong-andabo gabi lukk-ine.
1SG-NOM Fiqre-DAT orange-ACC buy-for market go-1SG.PF
'私はフィクレにミカンを買うためにマーケットに行った。'

3.6.3 時

時を表す条件節は、ma:k'ara「～後に」と tin「～前に」の2つがあり、それぞれ以下のようになる。

ma:k'ara「～後に」

(196) ta:n-i gab-apo ma:k'ara, mis-i muj-ine/mo-ode.
1SG-NOM market-ABL after lunch-ACC eat-1SG.PF
'私はマーケットの後に、昼ご飯を食べた。'

(197) ta:n-i gab-i lukk-i ma:k'ara, mis-i muj-ine/mo-ode.
1SG-NOM market go-PF after lunch-ACC eat-1SG.PF
'私はマーケットに行った後に、昼ご飯を食べた。'

tin「～前に」

(198) ta:n-i gab-i lukka-kaj-don tin, mis-i muj-ine/mo-ode.
1SG-NOM market go-NEG-INF before lunch-ACC eat-1SG.PF
'私はマーケットに行かないで、昼ご飯を食べた。'

音素表記

子音 (Consonants)	/(p), t, ts, tʃ, k, ʔ, b, d, (dz), g, (p'), ts', tʃ', k', ɓ, ɗ, ɸ, s, ʃ, h, z, (ʒ), ɦ, m, n, r, l, w, j/
母音 (Vowels)	/i, e, a, o, u, iː, eː, aː, oː, uː/

略号 (Abbreviations)

1SG	「1 人称単数 ('first person singular')」
1PL	「1 人称複数 ('first person plural')」
2SG	「2 人称単数 ('second person singular')」
2PL	「2 人称複数 ('second person plural')」
3SG.M	「3 人称男性単数 ('third person masucline singular')」
3SG.F	「3 人称女性単数 ('third person feminine singular')」
3PL	「3 人称複数 ('third person plural')」
M/(m.)	「男性 ('masucline')」
F/(f.)	「女性 ('feminine')」
SG/(sg.)	「単数 ('singular')」
PL/(pl.)	「複数 ('plural')」
DEF	「定 ('definite')」
ABS	「絶対格 ('absolutive')」
NOM	「主格 ('nominative')」
ACC	「対格 ('accusative')」
DAT	「与格 ('dative')」
GEN	「属格 ('genitive')」
ABL	「奪格 ('ablative')」
INSTR	「具格 ('instrumental')」
LOC	「場所格 ('locative')」
POSS	「所有 ('possessive')」
INTRO	「疑問 ('interrogative')」
NEG	「否定 ('negative')」
PASS	「受身 ('passive')」
REC	「相互 ('reciprocal')」
REF	「再帰 ('reflexive')
SPON	「自発 ('spontaneous')
ITER	「反復 ('iterative')」
PF	「完結相 ('perfective')」
IMPF	「非完結相 ('imperfective')」
INF	「不定形 ('infinitive')」

【参照文献】

Alemayehu Abebe 2002 'Sociolinguistic Survey Report of the Mesketo language of Ethiopia,' *SIL Electronic Survey Reports* 2002-067. Dallas: Summer Institute of Linguistics.
http://www.sil.org/silesr/2002/067/SILESR2002-067.pdf

Bender, M.L., J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.) 1976 *Language in Ethiopia.* London: Oxford University Press.

Cerulli, E. 1938 *Studi Etiopici III, Il linguaggio dei Giangero ed alcune lingue Sidama dell'Omo (Basketo, Ciara, Zaissè).* Roma: Istituto per l'Oriente.

Fleming, H.C. and M.L.Bender 1976 'Cushitic and Omotic,' In: M.L.Bender, J.D.Bowen, R.L.Cooper and C.A.Ferguson (eds.), 34-53.

Grimes, B.F. (ed.) 2000 *Ethnologue: Languages of the World. 14th edition.* Dallas: Summer Institute Linguistics.

乾　秀行 2002 「バスケト語の語彙」『一般言語学論叢』4・5合併号, 筑波一般言語学研究会, 11-33.

乾　秀行 2005 「バスケト語の文法概観」柘植洋一（編）『多言語国家エチオピアにおける少数言語の記述, ならびに言語接触に関する調査研究 (Cushitic-Omotic Studies 2004)』1-40.

乾　秀行 2006 「バスケト語の態（ヴォイス）について」橋本邦彦他（編）『実験音声学と一般言語学』東京堂，489-495.